

会 議 の 名 称	議員定数・報酬等検討 特 別 委 員 会 協 議 会	開催月日・令和6年6月28日 開会時間・ 午前 ・午後1時00分 閉会時間・ 午前 ・午後1時22分
出 席 者	河崎 周平 安藤 誠 後藤 徹 佐藤 健 南谷 清司 栗津 明 原 一郎 安井 智子 川柳 雅裕 野口 佳宏 後藤 國弘 堀 隆和 藤川 貴雄 豊島 保夫 南谷 佳寛 花村 隆 山田 紘治 近藤 伸二	
欠 席 者		
オブザーバー		
傍 聴 者		
説明のために 出席した者	藤井議会事務局長 浅井議会総務課長 堀議会総務課課長補佐 森議会総務課主任	
協 議 事 項	・ 委員会の進め方、スケジュールについて	

【開会＝午後 1 時 00 分】

野口委員長

ただいまから議員定数・報酬等検討特別委員会を開会いたします。

本日の資料はタブレット端末に格納いたしましたとおりであります。

本日の協議事項は委員会の進め方、スケジュールについてであります。この資料は前回の協議におきまして、当市議会における議員定数、議員報酬、政務活動費の推移について、全議員で共有したところであります。

今回はこの基礎情報を踏まえたうえで、今後の委員会の進め方やスケジュールについて、例えば、市民からの意見聴取や報酬等審議会での審議の依頼、定数と報酬、政務活動費の検討の順序、条例等の改正やその周知期間を含めた最終結論時期など、様々な進め方、スケジュールがありますのでこれを協議してまいります。各委員からご意見等ご発言をお願いします。

これ一番難しいんですよ。どうやってこの委員会で議論していくかというところでございまして。条例は全部違うんやもんね。議員定数、報酬、政務活動費、この三つやね。どこからでもいいですよ、ざっくばらんに聞いてくださいよ。

山田委員

三つの件、議員定数、報酬、活動費、これ全部自分たちに影響することですので、本当に慎重審議あるいは一回進んだやつ戻すことはこれなかなかできませんので、その辺のところは本当に慎重に考えていただいたほうがいいんじゃないかなと私は思います。

強いて言うなら、給料はちょっと上げてもらってもいいかなと思いますが、全体的には現状維持でもいいかなというのが私の意見です。

堀委員

政務活動費ですが、表の 2 ページを見ますと大垣市とか美濃市が廃止ということでやっておりますが、あと見てみますと全て羽島市よりも多いというね。12 万円というところがかかなりありますが、各務原なんか 36 万円という・・・

野口委員長

堀委員、進め方聞いとるんやで、進め方を。山田委員は慎重審議と言って、堀議員は。

栗津委員

進め方は、定数に関してはまだこれから選挙まで 2 年半

	ありますんで、それこそ慎重審議で。定数、報酬、政務活動費、全部絡んでくるわけですね。そういうことやで、今特にこんな時間ないときに言ってもいかなで、また改めて。 会議やなしに雑談の中からどういう考えがいいというのを、皆さん本当にしっかり考えないとあかんと思うよ。単なる数で減らそうとかやなしに、本当に今後の羽島市議会、僕は市民に、例えば報酬高いとか安いとか言ってる人おったら、今の段階から何を言っとると、しっかりやっとならそんなこと言わんともっと高くしてやらなあかんよと、僕はいくらでもはっきり言うよ、市民には。 そういうことやで、もうちょっといろんな意見あると思うんで、日を改めてやりましょう。
佐藤委員	定数をまず先に議論をして、今年は定数を議論し、定数を改正後、来年に報酬あるいは政務活動費を議論したらいいんじゃないかなと思います。
野口委員長	政務活動費はちょっとあれやね、定数と報酬がちょっと優先されるような感じなんだね。
南谷清司委員	議論の進め方ということですが、確か12月議会に議案の提出があって継続審議ということで。ということはもう6ヶ月経って今この状態なんですよ。 何でもこういうふうになってるかとかつくづく考えてみると、18人全員で考えていこうっていうのがやっぱり大きなネックになってるんじゃないかなということを思うと、最終的には18人全員でいろいろ協議してやらなきゃいけないとは思いますが、そこまでの論点整理なりある程度のたたき台なりは、6人ずつ3チームに分けて分科会を作って、定数と政務活動費と報酬についてきちっと論点整理をして、考え方を整理して、そしてある程度のたたき台を一つでも二つでもいいんですけど、そういうものを出して、それを基に全員で集まって喧々諤々とやったほうが、この6ヶ月間を見てるとそういうふうな形にしないと議論が進んでいけないんじゃないかなというふうに思ったりはします。 市民から見ると、ただ先送りしとるだけかっていうふうに言われかねませんので、ちょっと改善したほうがいいのかなというふうに思っています。
花村委員	南谷清司委員が言われた半年経ってしまったという話だ

	けども、今度の選挙がまだ先ということがあって、なかなか結論までには気持ちがついていかないということもあります。それで山田委員言われたように慎重に審議をしていくというスタンスがいいんじゃないかというふうに考えます。
河崎議員	南谷清司委員のお話のとおり、6ヶ月経ってこの状態というのは確かにそのとおりで、やっぱりプロジェクト進めていくうえで必要なのが期限ですよ。いつまでに何を決めるという最終の期限が決まらない状態だと、このままズルズルと行ってしまうと思うので、その辺含めて分科会というのも、そういう形で進めていければ面白いんじゃないかなと思います。
川柳委員	これを半年もやってるってのを聞いたんですが、この議論は将来の羽島市議会のあり方というか、大事なことを決めてると私は思ってるんで、1, 2, 3年、そして7年、11年かけてでも、これはしっかりと、あのときこうしておけばよかったっていう禍根を残さないように、慎重に審議をして決定していけばいいと思ってるので、私は11年先まで考えてもいいかなって思ってます。
堀委員	定数はまだ3年先までであると。しかし報酬とか政務活動費というのは来年度からでも変えることができるというものであると思うんですよ。だからそんな意味で、今変えなくてはいけないところについては早速審議するというところで、特に政務活動費、私は少ないかなというようなことを思っておりますので、そういうところから、まずそれだけ上げてもいいと思いますので、そんなところの議論をやっていくと。そしてそれに対して今の定数とか報酬というものも絡めていくということでやっていったらいいと思います。
南谷清司委員	慎重な審議をするためにどうするかということで、プロジェクトチームを作って議論を深めたらと、それを持ち寄ってみんなで審議したらというふうな提案をしておりますので。慎重に審議するためにどうしたらいいかという、ここがポイントだと思います。
原委員	前回定数削減のときにプロジェクトチームというか、そのときは議会改革特別委員会というチームで行ったんです

藤川委員	けど、結構ポイントを絞れて、データもしっかり計算できて、それぞれの思いもよく分かりまして、しっかり着実に階段を上れたかなということを感じておりますので、南谷清司委員が言われたようにある程度たたき台をそれぞれが作ったほうが、全体でふわっとなるよりはより明確かなと、順序立っていいかなというのが。 今三つのテーマがあって、それぞれについて話していくと議論するいろんなポイントがあって、内容もそれぞれ三つもあるってなると、回数を重ねる時間がかかるということで、その点分科会という専門チームという話であれば、全員が集まらなくてもいいと。全員のスケジュールを合わせる必要もなくなると、より集まりやすくコンパクトに会議が開けるということであれば、それこそいろんな意見も出て、慎重に回数を重ねていけるんじゃないかと思いますので、そのような進め方でいいんじゃないかと思います。 あと、委員会ができたのは確か3月だったと思います。3ヶ月ぐらい経っていて半年は経ってないと思います。
堀委員	定数については、2人という案と1人という案とそして変えないという案もある。 (「2人増やすという案もある」と呼ぶものあり)
堀委員	ある程度意思表示された段階で今来とるわけですね。意思表示された段階でプロジェクトチームを作るとその方向で議論が進んでいくという可能性もありますので、真っ白な状況から誰を選んでどういう話をするのかということであればいいと思いますが、今はもう意思表示が済んでおるという段階で、ちょっと疑問を呈します。
栗津委員	プロジェクトチームと言われますが、三つ作るなら今常任委員会三つあるので、その委員会である程度協議をしていくと。そういう中で会って話をしていくと。
近藤委員	全員でやる方法もいいと思うし、3委員会それぞれでするのもいい、プロジェクト委員会を作るのもいい案だと思います。 ただ、私の意見としては会派の代表、代表が都合悪ければその会派の中から選んで、最低でも1人出して、それでぜひ意見を述べてもらう場を作っていたきたいと思いま

藤川委員	す。プロジェクト委員会だと例えば会派の偏りがある可能性がありますので、最低でも、例えば私らだと3人、それから共産党だと花村議員1人でも会派の代表ということで、それぞれの立場から意見が言えるような組織でお願いしたいと思います。 最初にこの委員会を作ったときに皆で協議しましょうって話があって、この委員会がなぜ全議員が委員になってるかというところ、全員の意見をとということで、全会一致でご賛同いただいたと記憶しております。 あくまでも決定はこの委員会でのことでして、その中に全員の意見が反映されるようになってるといいんじゃないかと思うんですけど、とはいえ全員が一堂に集まるってなかなか小回りが利かないので、一旦議論を深掘りするためにグループを作って、その中で議論を深めて、最終的には全員で話し合うという流れでいいんじゃないかなと思います。あくまでも全員でというところを、皆さんからご賛同いただいてこの委員会が出来上がっておりますので、そこだけは大事にさせていただけたらと思います。
山田委員	ちょうど僕が議長の、平成30年のときに2回定数削減の要望がありました。給与のことは何もなかったんですが、基本的にはただ定数削減の話ばっかなんですよ。定数削減をなぜしなきゃいけないのかということは本当に議論されていない。ただ漠然と定数削減。 前にも申し上げましたが過去にもそういうことが幾度かあった。その時分は経費の削減を一つのテーマにして定数の削減ということを言われた。その関係については、僕はいつも言うことが18分の1の600万、700万の経費削減ね。なら職員は300人おる。300分の1で1人やったら経費は別に負担はあまり変わらないということで、僕はあくまで定数18・・・
野口委員長	進め方はどうしたらいいですかね。
山田委員	とにかく今回進めていくのに、削減削減やなしになぜ削減が必要とかあるいは給料面も上げていかなあかんという内容の審議をしていただきたい。
野口委員長	プロジェクトチームでやるのか会派代表でやるのかっていう話なんで、他に何かございませんか。

花村委員	南谷清司委員も言ってみえるチームに分けるだけであって、あくまで全員がそれぞれの班に入って・・・ (「最終的には全員で、論点整理とかを分けてやる」と呼ぶものあり)
花村委員	ですからあくまで全員がどこかの班に入るといっただけ確認。この中から何人選んでそこでやるっていうのは議長言われるように本当じゃないので、全員が参加する形で分けてグループでやるというのがいいなと思いました。
野口委員長	慎重審議を期すために、プロジェクトチームでやる。賛成の人。 (挙手多数)
野口委員長	会派代表でやる。 (挙手少数)
野口委員長	では、プロジェクトチームでやります。メンバーどうしよう。 (「議長一任」と呼ぶものあり)
豊島委員	選び方、ちょうど18人ですから。席順で1番から6番とかそういうことじゃなしに、例えば1番から次7番へ飛ぶとかそういうような飛び方で。
安藤委員	議長一任でお願いします。
南谷清司委員	議長一任で結構なんですけれど、せめて希望ぐらい聞いてもらいたいなと。第1第2第3まで希望を聞いてもらって、あとは議長一任で結構ですけれど。
野口委員長	議長一任でいいですか。バランスよくやらせてもらいますんで。
安井委員	先ほども聞いたんですけれども、総務、民文、産業建設で三つの部門があるので、その方たちで分けたらどうなの

野口委員長	かなと。 議長一任でお願いします。いいかな。 (異議なし)
野口委員長	議長一任でやらさせていただきます。3 常任委員会のメンバーになるかもしれませんし、バラバラになるかもしれませんがその辺はよろしくお願いいたします。 では、このように進めさせていただきたいと思います。これにて散会いたします。ご苦労さまでございました。 【閉会＝午後 1 時 22 分】